

2050年

7がけ社会がやってくる!?

2050年の長野県は…

- 人口は2001年のピーク時から**約3割減少** (159万人)
- ただちに出生率が回復してもしばらく**人口減少は続く**
- 高齢化率は**4割超**
- 現在、**若者、特に女性の転出超過が深刻** など

長野県が
100人の村とすると

2020

総人口は
78人の村となり

2050

65歳以上 ☹️	32人 (32%)	➡️	33人 (42%)
15~64歳 😊	56人 (56%)	➡️	38人 (49%)
0~14歳 😊	12人 (12%)	➡️	7人 (9%)

人口減少で
困ること

担い手不足

医療・福祉・交通
・物流サービス低下

地域のコミュニティ
弱体化

インフラや行政サービスの
維持

消費の減退
産業の競争力低下

社会保障
税負担が増加

空き家や空き地の増加
娯楽施設の撤退

ひとり一人にあった
学びの実現

誰もが社会で
活躍できるチャンス

人口減少下の
希望の種

新たな
ビジネスチャンス

行財政改革や
まちの再生

AI・ロボット技術等
の飛躍的な発展

約150回の意見交換を実施

県民をはじめ長野県に縁がある方々と、
人口減少の現状を共有し、2050年のありたい姿を
考えました。(約150回、3,000人が参加)

- HOPE2050若者との県民対話
— 共に創ろう信州の未来を—

知事と若者との県民対話を県内4か所で開催。
若者の視点で2050年のありたい姿を考えました。

「ありたい姿」

を実現するには
現状を続けていくだけ
ではダメ!

Re-think

“当たり前”を問い直す
考え方のパラダイムシフト
が必要

再配達って
当たり前?

地域の
お茶くみは
女性のしごと?

LET'S!

寛容な社会づくり

① 若者・女性から選ばれる寛容な社会づくり

若者 ▶ 若者の可処分所得が**県民平均以上に向上**

性別 ▶ 家事・育児時間の男女格差 **2.0倍未満**

子育て ▶ 男性の育児休業取得率 **85%以上**

子ども ▶ 全天候型の子どもの遊び場が増える

多様性 ▶ 無償で日本語や日本文化を学ぶ場がある

学び ▶ 最先端のSTEAM教育※・英語教育

※STEM(科学(Science)、技術(Technology)、工学(Engineering)、数学(Mathematics))を統合的に学習する教育に、芸術(Arts)の創造性教育を統合する教育手法

LET'S!

信州暮らし

② 信州の強みを活かした移住・関係人口の増加 ～暮らし、つながる仲間を増やそう～

▶ 年間移住者数 **10,000人以上**

▶ 移住希望地ランキングで**1位を獲得**

2050

ありたい姿

みんなで達成しよう!

2030

の旗

今の子どもたちが大人になる
2050年に向け、

2030年までに達成したい

当面の目標

(主なもの)

LET'S!

まち・むらづくり

③ 安心・便利で持続可能な生活圏の整備促進 ～県土のグランドデザインを策定・実現しよう～

▶ 安心・便利で持続可能な**県土のグランドデザイン**をつくる

▶ コンパクト・プラス・ネットワーク&レジリエンス※
によるまち・むらづくりについて議論し、具体的な事業に着手

※住居や商業施設、公共施設等が適切に配置され、
そこに交通ネットワークならびに情報ネットワークで利便性高く
アクセスでき、防災力にも優れた圏域を形成すること

LET'S!

経営等の革新

④ 変革期を乗り越える経営等の革新

労働生産性・グローバル

▶ 多くの事業所が**DX**や**リスキリング**を積極的に推進

▶ 訪日外国人旅行者の観光消費額 **1,000億円**

人材・省力化

▶ 女性の就業率を**70%以上**とし、高齢者の就業率**全国1位**を維持

▶ 法定雇用率適用事業所で雇用される障がい者数 **9,000人以上**

共創

▶ 圏域ごとに行政体制のあり方について議論され、
それを踏まえた取組が行われている

信州未来共創戦略

みんなで作る2050年の長野 (仮称)

を進めるための

けんみん
県民



かいぎ
会議

参加者募集!!

がはじまります!

長野県から
日本を変えよう!

学ぶ

人口減少の事実と課題

例えば…

- 有識者の話をきいてみよう
- 働き方改革の現場を覗いてみよう



Re-think

問い直す

例えば…

- どんな当たり前があって、どう変えたらいいか、ワークショップで考えてみよう

アクション 行動する

例えば…

- 自分ができることを発表して実行しよう
- プロジェクトを作ってみんなで動かそう

広げる

なかまづくり

例えば…

- 身近な人に取組を伝えよう
- 一緒に取り組む仲間を探そう (コラボしよう)



シンカ

進化・深化

例えば…

- 取組事例をみんなで共有して、自らの取組をシンカしよう



上の活動は一例です。県民会議で考えよう!

※県民会議の名称は「私のアクション!未来の長野創造県民会議(仮称)」(2024年12月の設立会で正式決定予定)

Q どんな人が入れるの?

若者、子育て世代、高齢者、障がい者、企業、団体など、どなたでも参加可能です!

Q 参加費はかかるの?

参加費はかかりません!

Q 遠方だけど参加できるかなあ

大丈夫です!
オンラインでも参加可能です。

Q 子連れでも参加できる?

お子さん同伴でも参加できます!

Q こんな取組あったらいいな!

実現に向けて一緒に考えましょう!

Q メリットは?

スキルアップにつながるほか、
一緒に取り組む仲間ができます。

Q 参加したい!

こちらの二次元バーコードから
申し込んでください。
(常時募集中)

